

中国地域の経済動向

(2025年8月の指標を中心に)

～持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる～

2025年10月23日

(本発表資料のお問合せ先)
総務企画部企画調査課長 中野 伸二
電話：082-224-5633
メール：bzl-chugoku-chosa@meti.go.jp

～判断の推移～

2025年9月（7月指標中心）		2025年10月（8月指標中心）
基調判断	持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる	⇒
1. 生産動向	弱含みで推移	⇒
2. 個人消費	持ち直しの動きに足踏み感がみられる	⇒
3. 雇用動向	有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少	⇒
4. 景況感	現状は前月に比べ低下、先行きは上昇	現状は前月に比べ上昇、先行きは低下
5. 貿易	輸出、輸入ともに前年同月比で減少	⇒
6. 建設動向	公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少	公共工事、住宅建設ともに前年同月比で減少
7. 企業倒産	件数は前年同月比で減少、負債総額は前年同月比で増加	件数は前年同月比で増加、負債総額は前年同月比で減少
8. 設備投資	2025年度計画は前年度を上回る見込み	⇒

1. 生産動向 ～弱含みで推移～

2025年8月の鉱工業生産指数（速報）は 98.2、前月比 3.8%の上昇となった（2020年 = 100、季節調整済）。出荷は上昇、在庫は上昇、在庫率は上昇となった。

生産を業種別にみると、自動車（乗用車・トラック・主要部品）、化学工業（除. 医薬品）、電子部品・デバイス工業などが上昇し、汎用・業務用機械工業、金属製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業などが低下した。

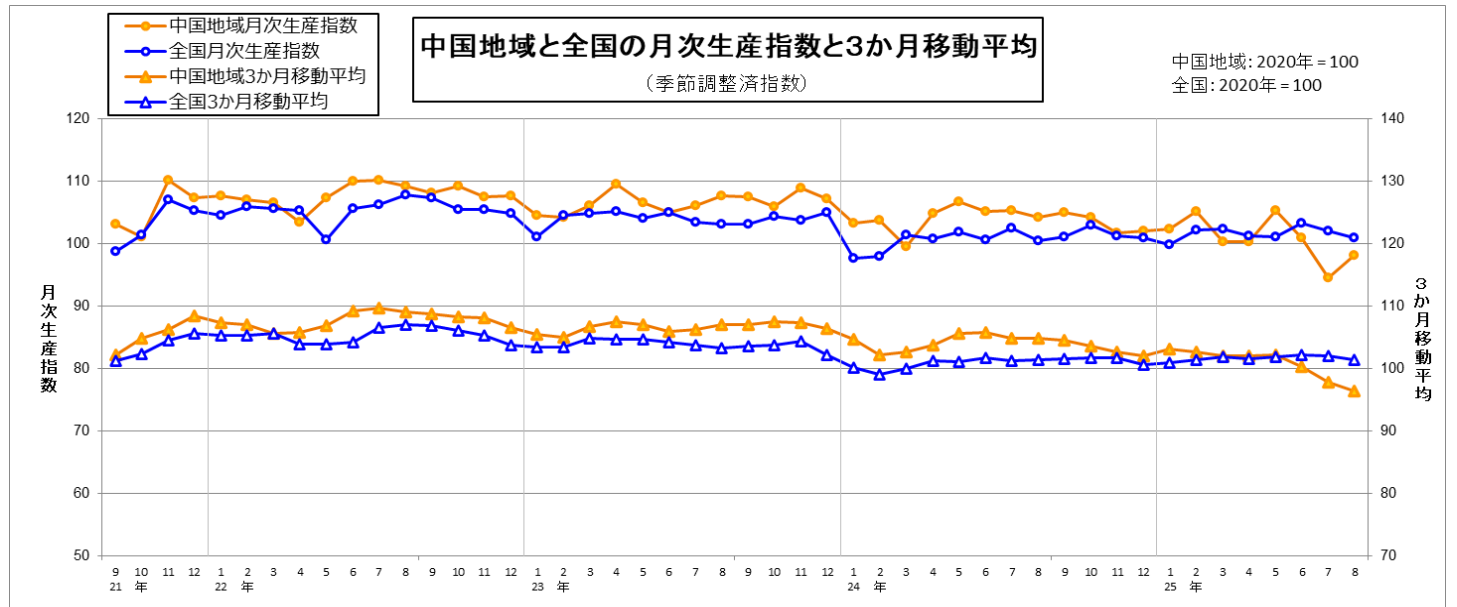
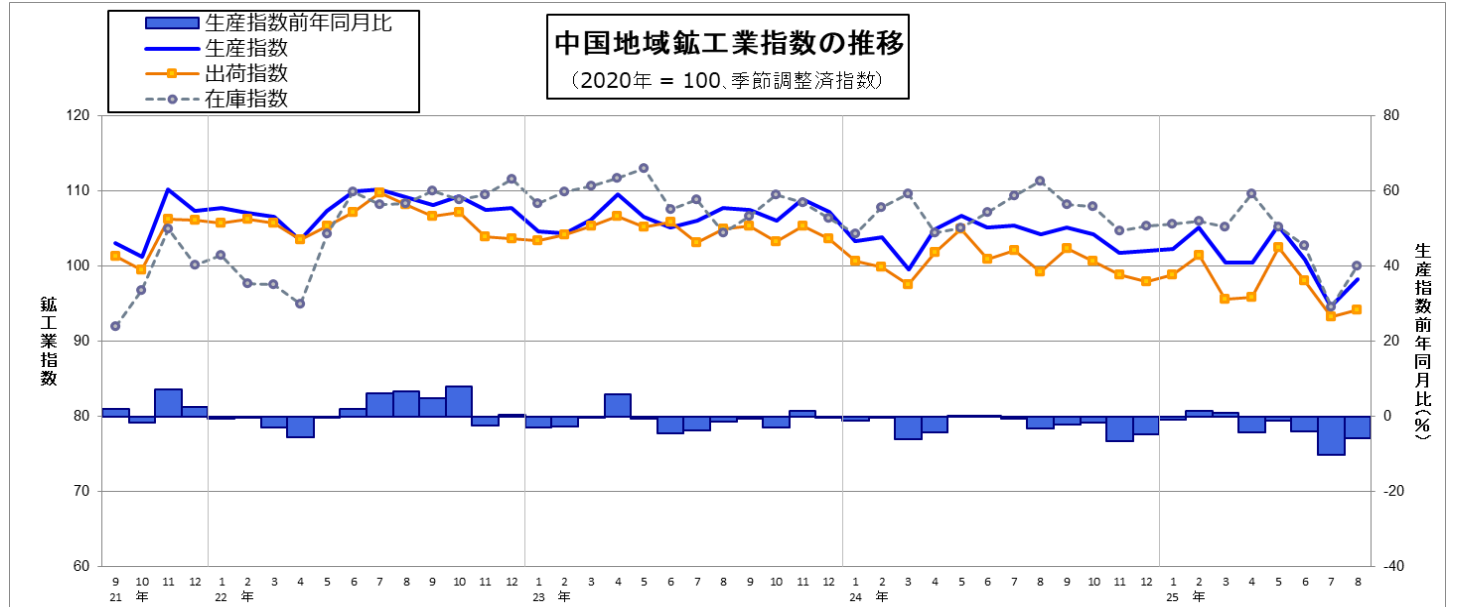
【主要業種の動向】

自動車（乗用車・トラック・主要部品）は、需要動向に応じた生産計画の見直しにより低下傾向。

化学工業（除. 医薬品）は、定期修理明けの影響で上昇したものの、低い水準で推移。

電子部品・デバイス工業は、生成AI向けが好調により高い水準で推移。

詳細データはこちらから



2. 個人消費 ～持ち直しの動きに足踏み感がみられる～

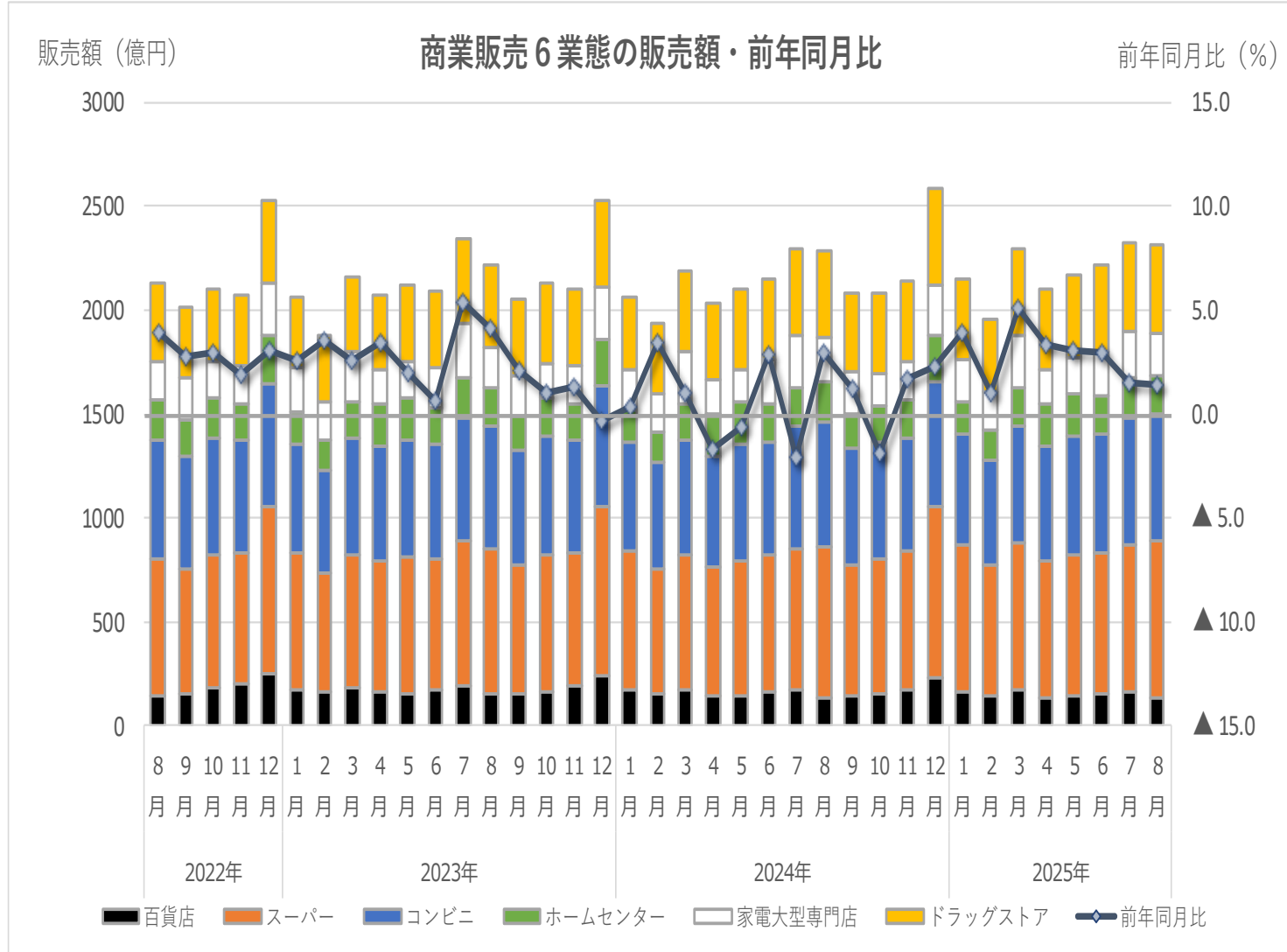
2025年8月の商業6業態の販売額は2,314億円で、前年同月比1.4%と10か月連続で前年を上回った。

(百万円) (全店舗、%)

	6業態における構成比	販売額	前年同月比		前月の前年同月比
6業態		231,372	1.4	10か月連続プラス	1.5
百貨店	5.9%	13,686	0.0	24か月ぶりにプラス	▲ 6.3
スーパー	32.4%	75,010	3.4	10か月連続プラス	5.2
コンビニエンスストア	26.5%	61,272	1.6	6か月連続プラス	2.7
ホームセンター	7.9%	18,259	▲ 5.2	3か月ぶりにマイナス	0.3
家電大型専門店	9.1%	21,116	1.8	2か月ぶりにプラス	▲ 8.4
ドラッグストア	18.2%	42,029	0.8	44か月連続プラス	3.2

	店舗数	前年同月比
百貨店	12	0.0 %
スーパー	340	3.0 %
コンビニエンスストア	3,045	▲ 0.3 %
ホームセンター	403	0.0 %
家電大型専門店	177	0.6 %
ドラッグストア	1,066	2.9 %

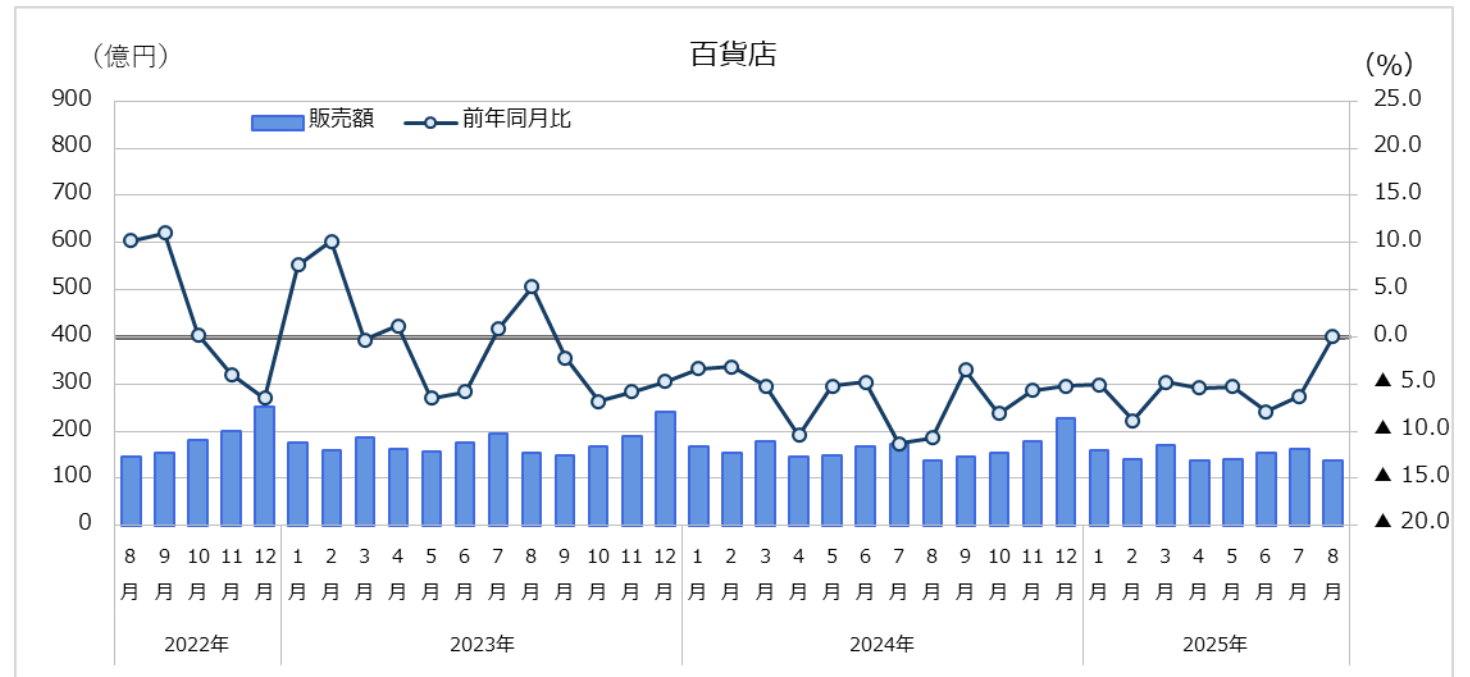
その他のデータはこちらから



2. 個人消費

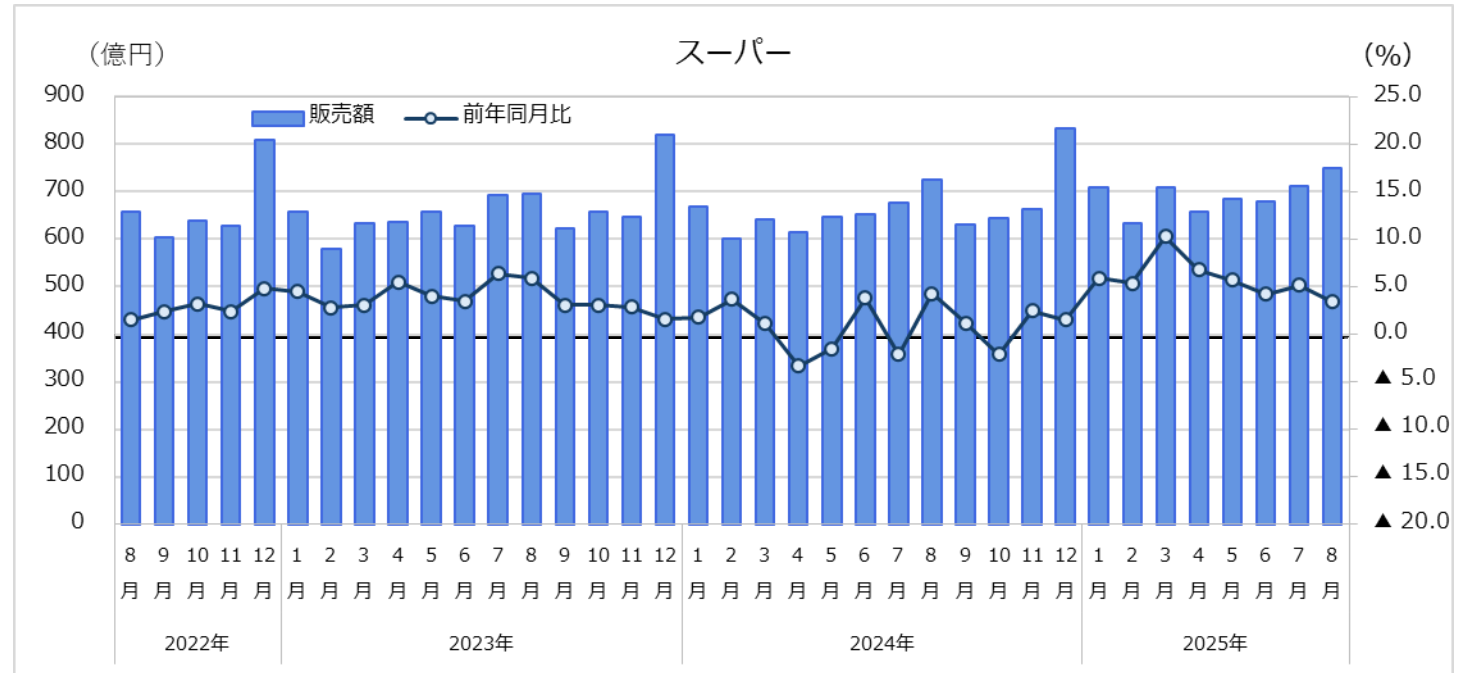
(1)百貨店の状況

宝飾や時計などの高額品が好調だった。また、衣料品は夏物セール品、飲食料品はギフト解体セールが好調だった。一方、猛暑の影響で外出が控えられ、ハンドバッグ、靴が低調だったほか、秋物の衣料品の動きが鈍かった。



(2)スーパーの状況

伸び幅は鈍化しているものの、引き続き価格上昇により米の売上が増加した。また、水揚げが好調だったさんまにより動きがみられたほか、パーティーメニューの焼肉や寿司は少人数用の商品が好調だった。一方、前年の南海トラフ地震臨時情報の発表に伴う需要増の反動で、水や缶詰の売上が減少した。



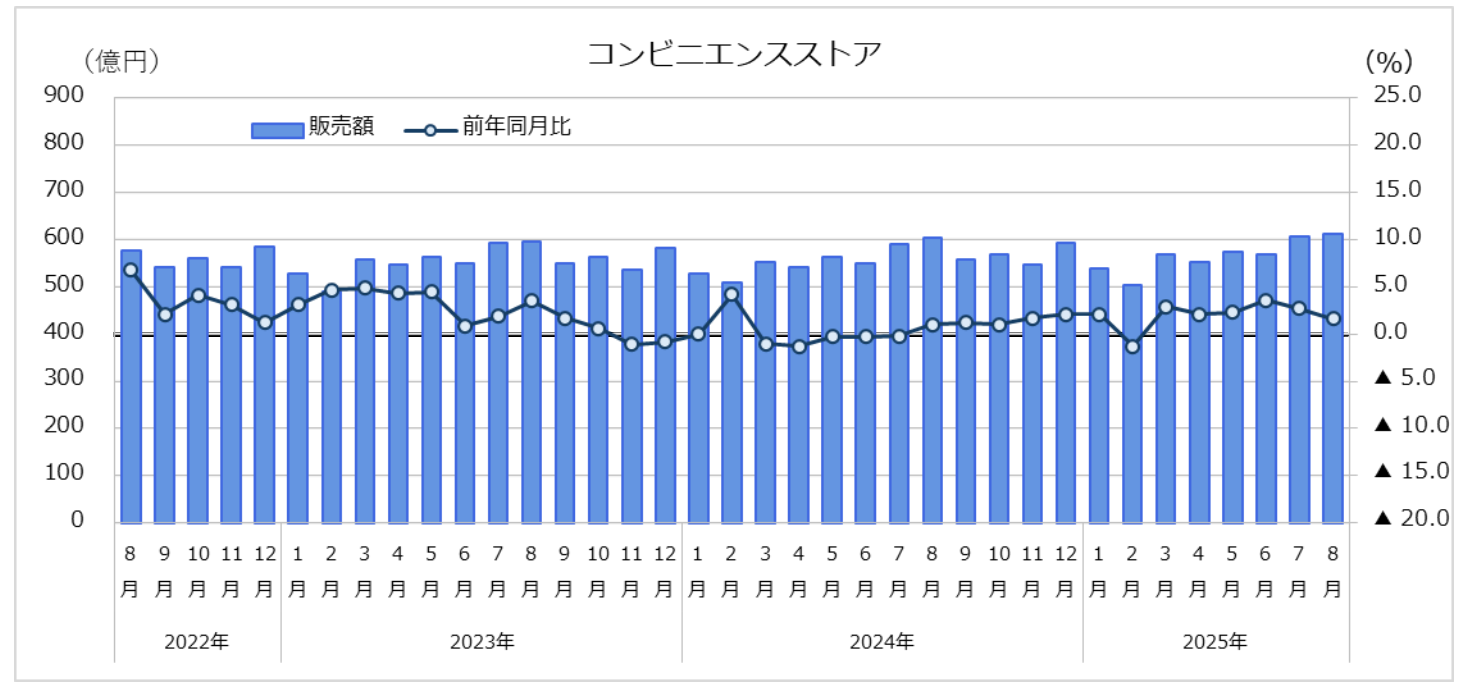
詳細データはこちらから



2. 個人消費

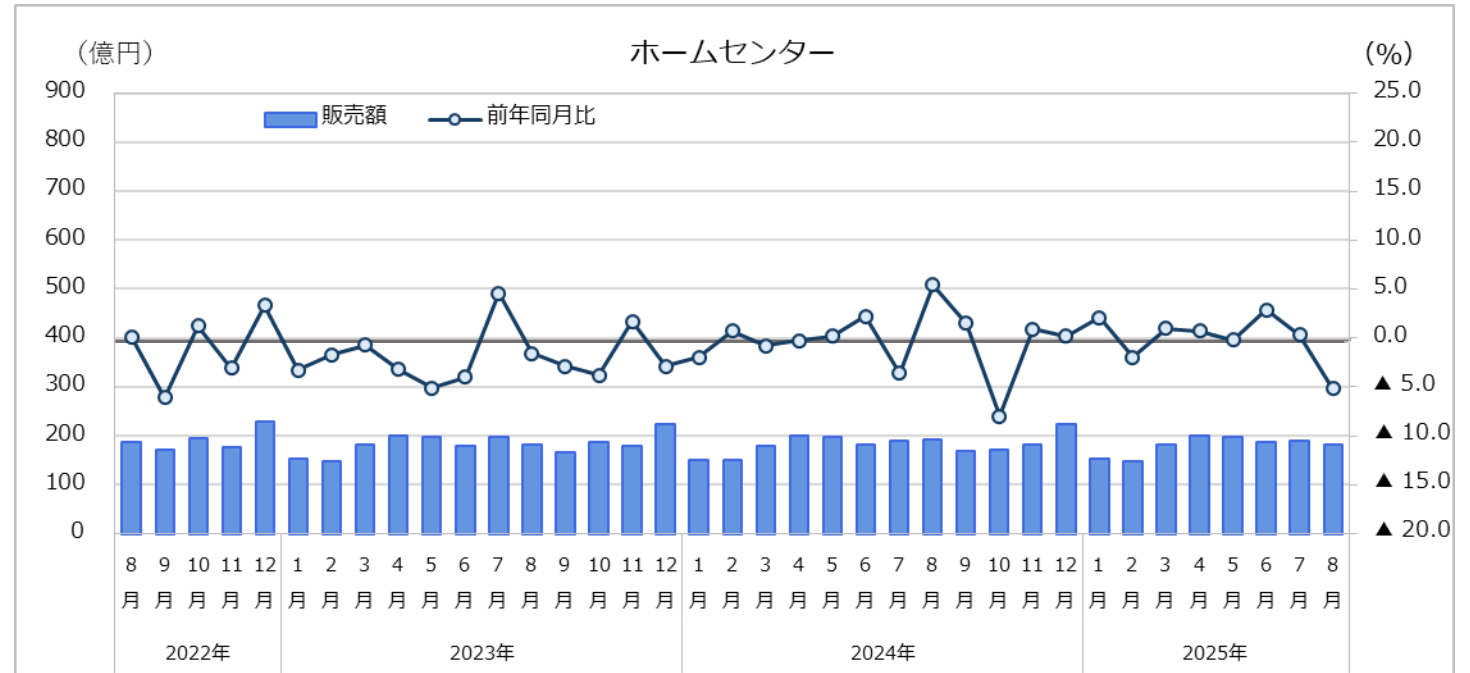
(3) コンビニエンスストアの状況

販売促進効果と割安感でおにぎりや揚げ物が好調だったほか、価格上昇で菓子の売上が増加した。一方、猛暑の影響で外出が控えられ、客数が減少したほか、飲料、アイスが低調だった。



(4) ホームセンターの状況

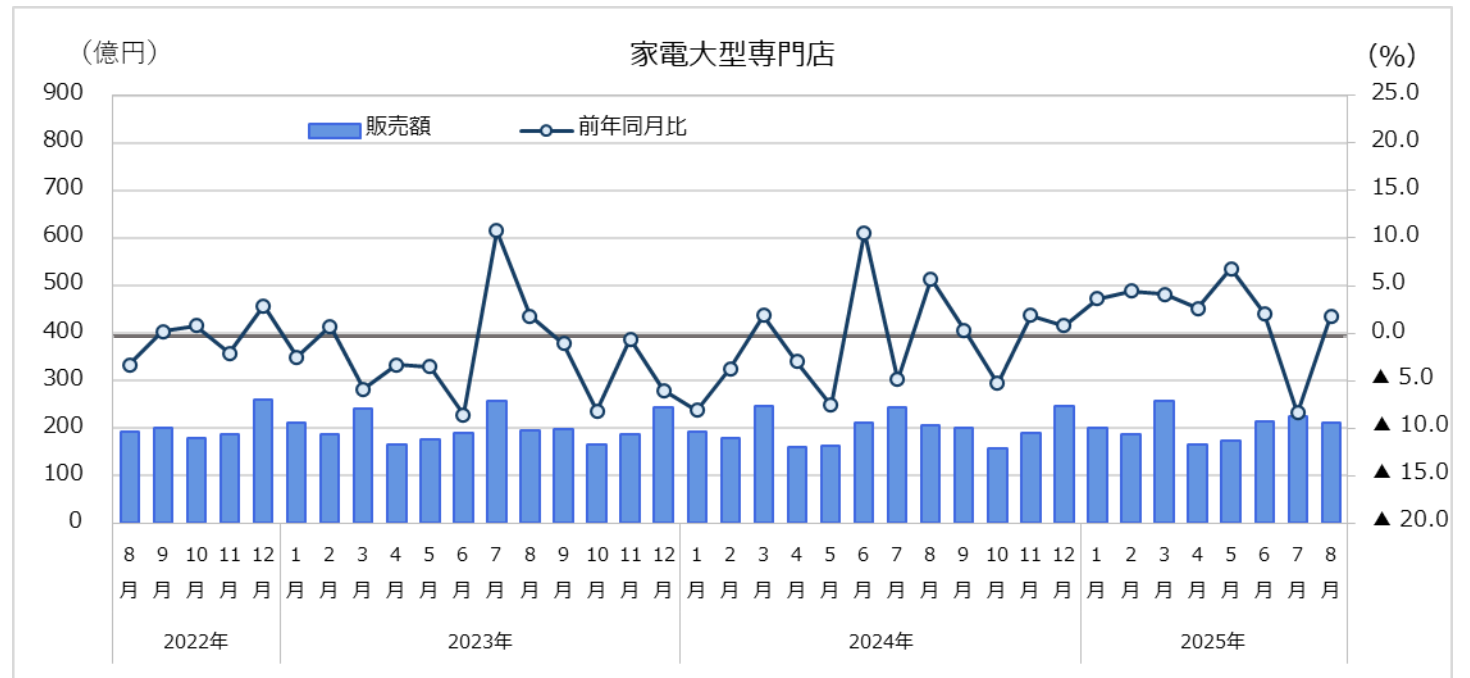
前年の南海トラフ地震臨時情報の発表に伴う需要増の反動で、水、紙製品、電池、カセットコンロ、工具・金物類が低調だった。また、需要が前倒しになった冷房用品が低調だった。一方、秋植えの準備で種や肥料が好調だった。



2. 個人消費

(5)家電大型専門店の状況

販売促進効果で携帯電話が好調だったほか、OSのサポート終了に伴う買い換え需要でパソコンが好調だった。一方、前年好調だったエアコンが伸び悩んだほか、冷蔵庫が低調だった。



(6)ドラッグストアの状況

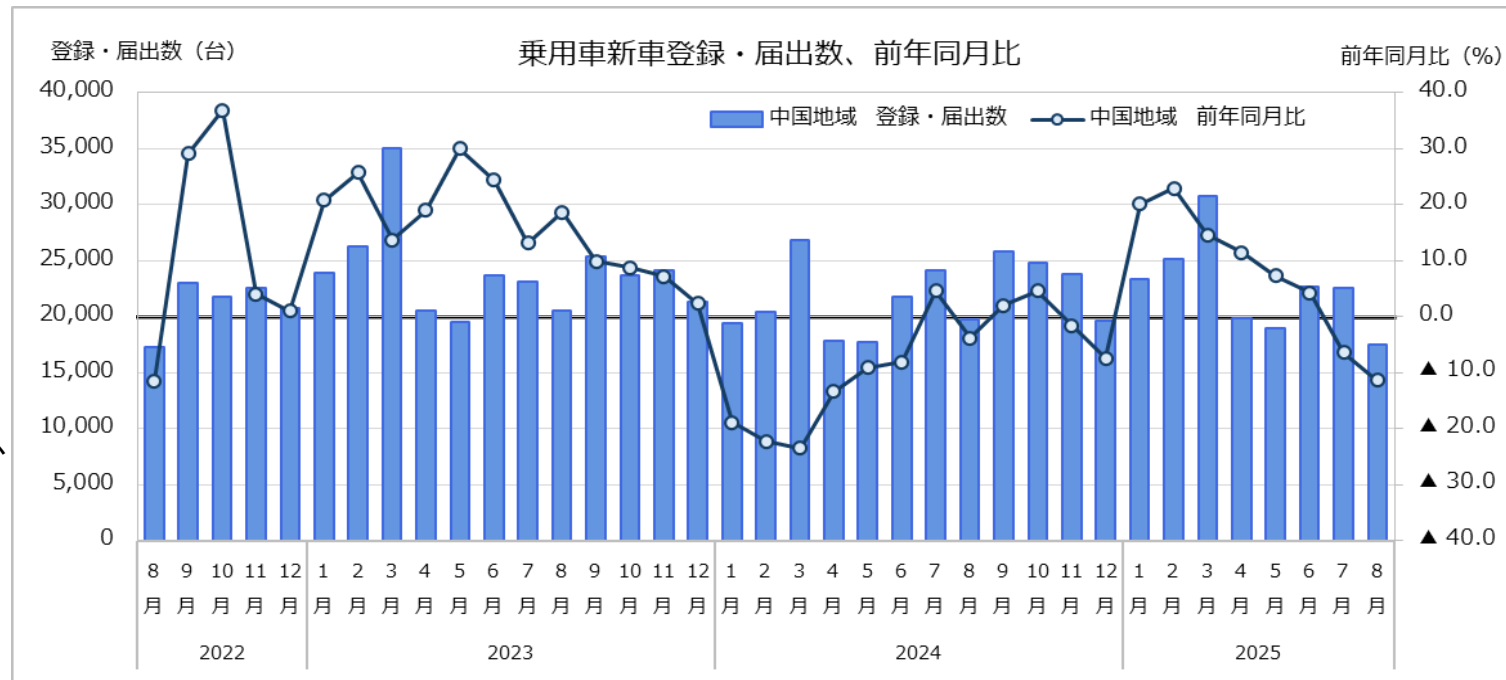
伸び幅は鈍化しているものの、引き続き価格上昇により米の売上が増加した。また、スキンケア商品が好調だった一方、猛暑の影響で外出が控えられ、UVケア商品は低調だった。そのほか、前年の南海トラフ地震臨時情報の発表に伴う需要増の反動で、水、レトルト食品、紙製品の売上が減少した。



2. 個人消費

●乗用車新車登録・届出数

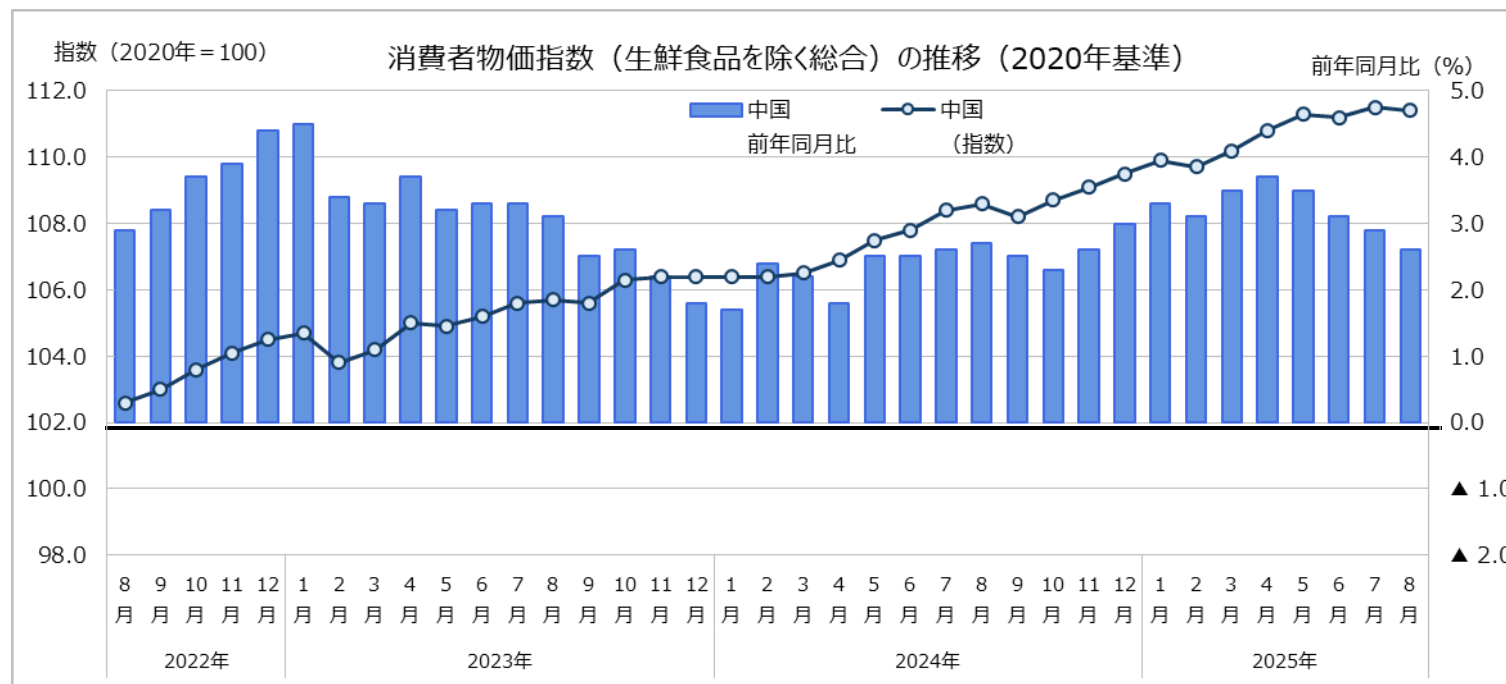
2025年8月の乗用車新車登録・届出数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車全てが前年同月を下回り、合計では前年同月比▲11.3%と2か月連続で前年を下回った。



(資料) 中国運輸局資料をもとに中国経済産業局作成

●消費者物価指数 (中国地域)

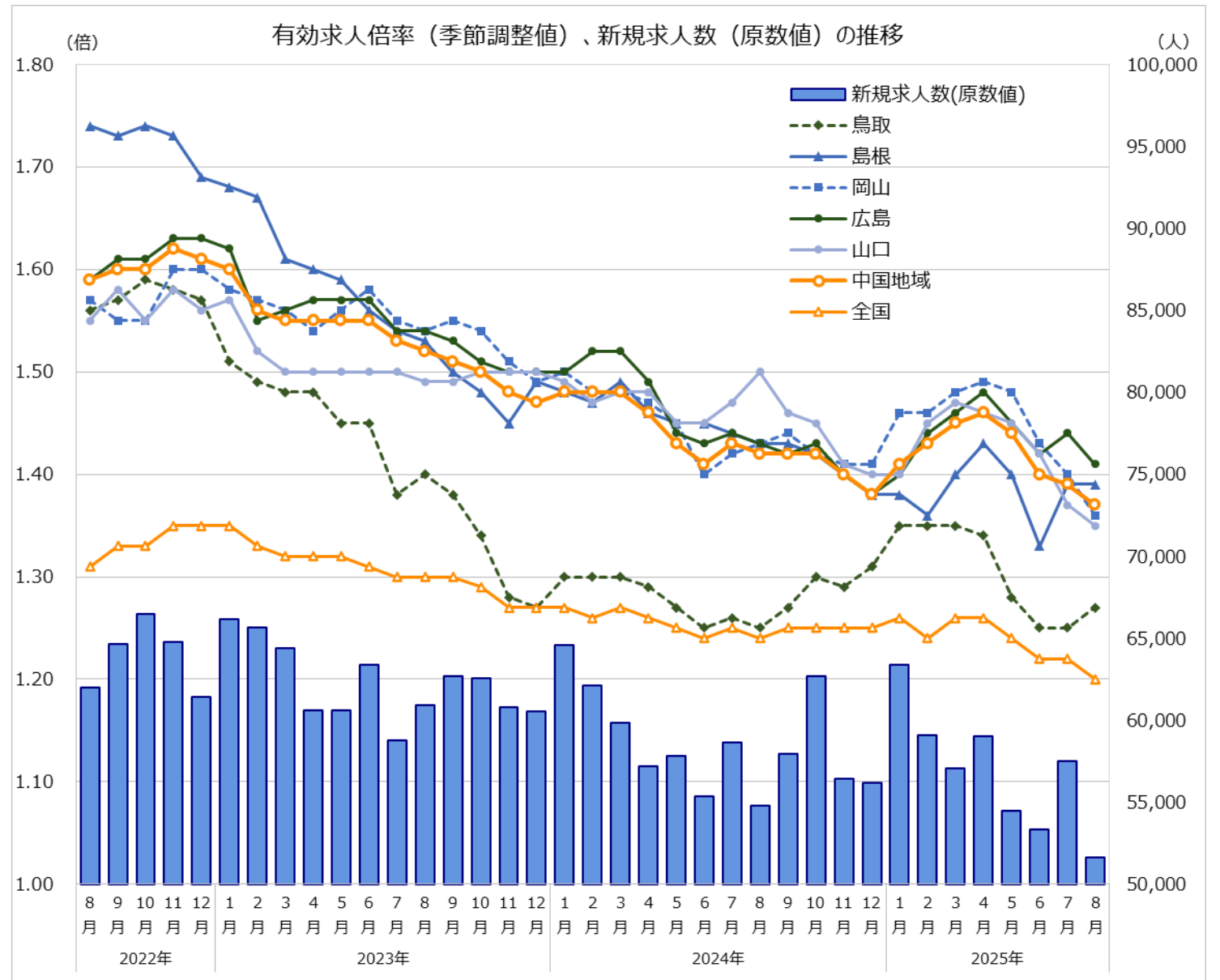
2025年8月の消費者物価指数 (生鮮食品を除く総合指数) は前年同月比2.6%の上昇となった。



(資料) 「消費者物価指数」 (総務省)

3. 雇用 ～有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少～

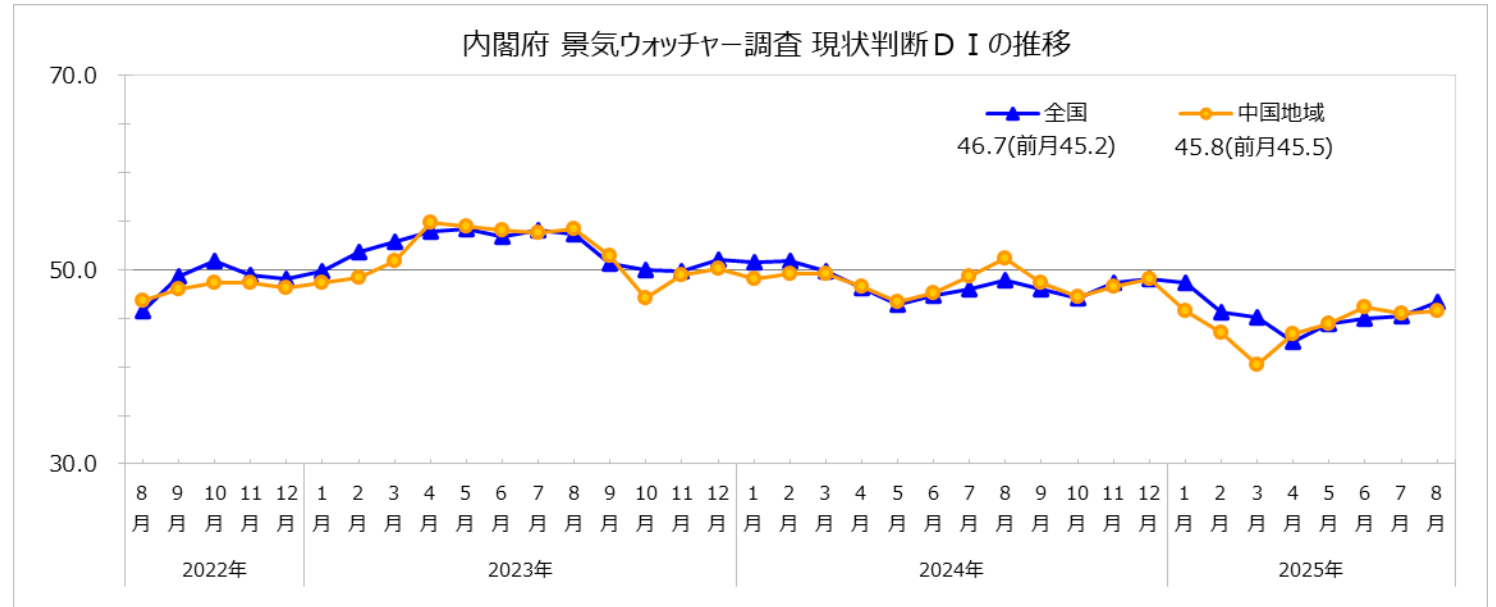
2025年8月の有効求人倍率は、1.37倍で前月の値を0.02ポイント下回り、4か月連続の低下となった。また、新規求人数（原数値）は、前年同月比▲5.8%で4か月連続の減少となった。



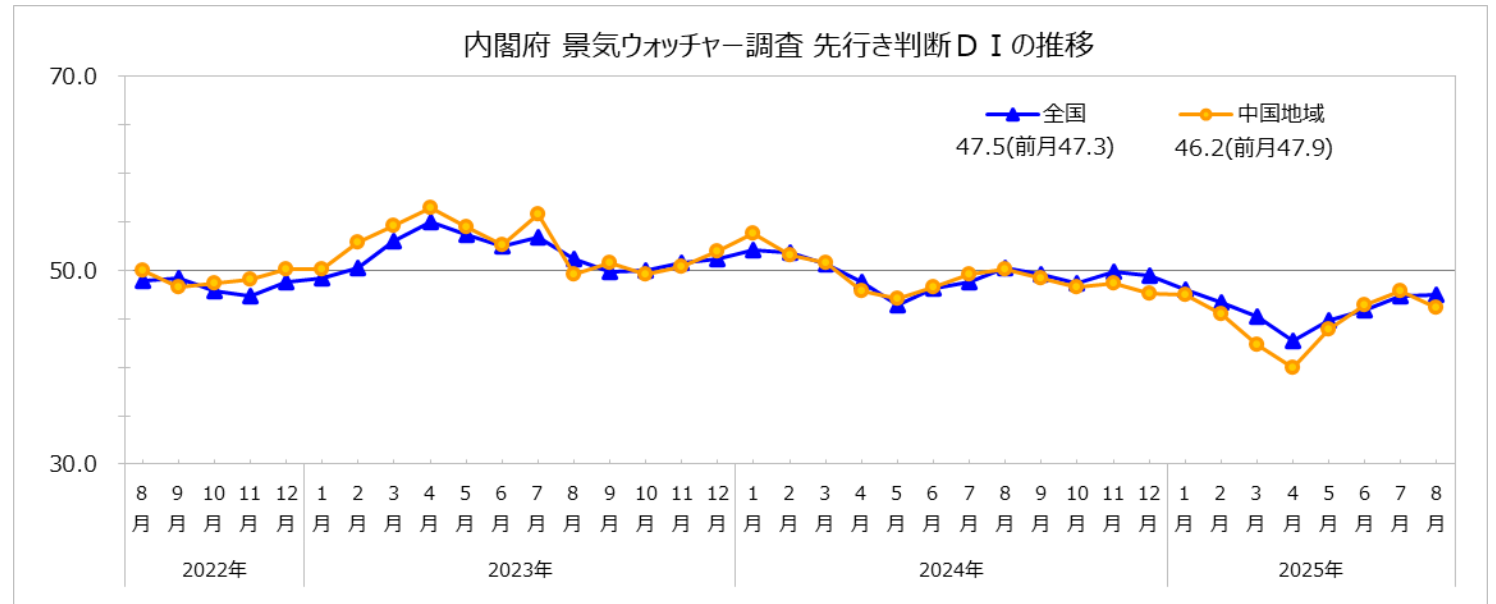
(資料) 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」(厚生労働省)

4. 景況感 ～現状は前月に比べ上昇、先行きは低下～

内閣府の景気ウォッチャー調査（令和7年8月調査結果）によると、中国地域の3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D I（方向性）は45.8となり、前月差0.3ポイントの上昇となった。

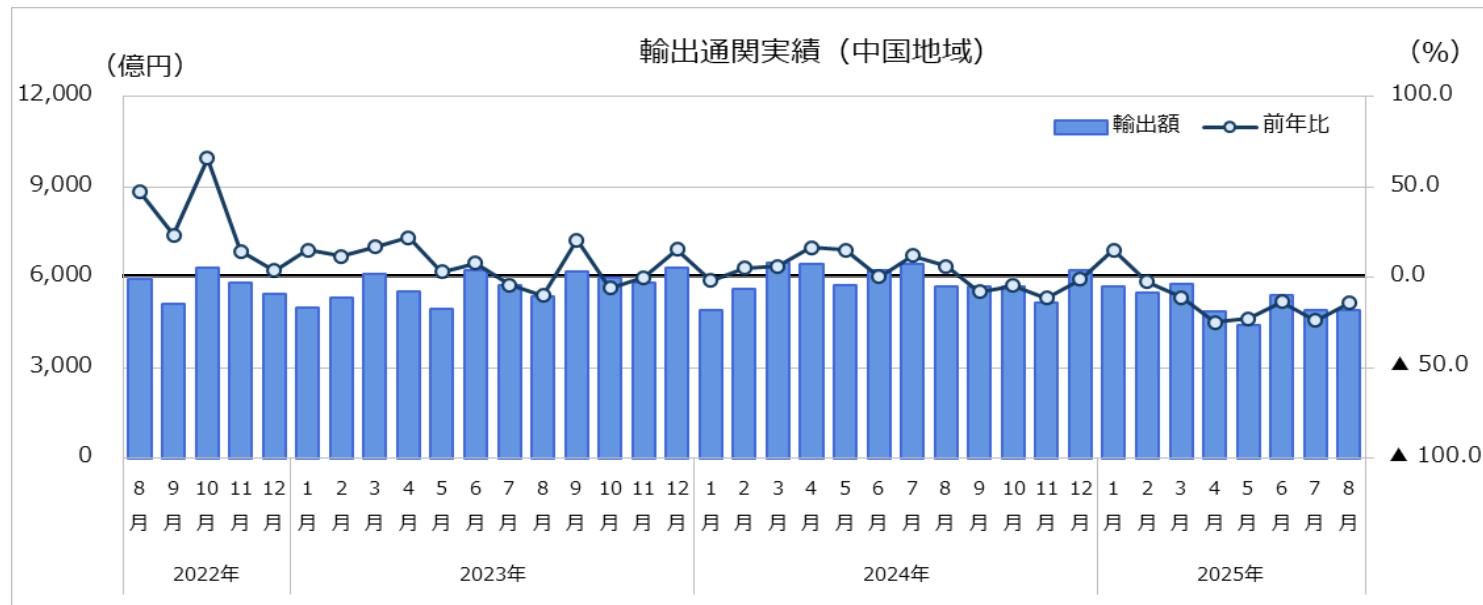


2～3か月先の景気の先行きに対する判断D I は46.2となり、同1.7ポイントの低下となった。

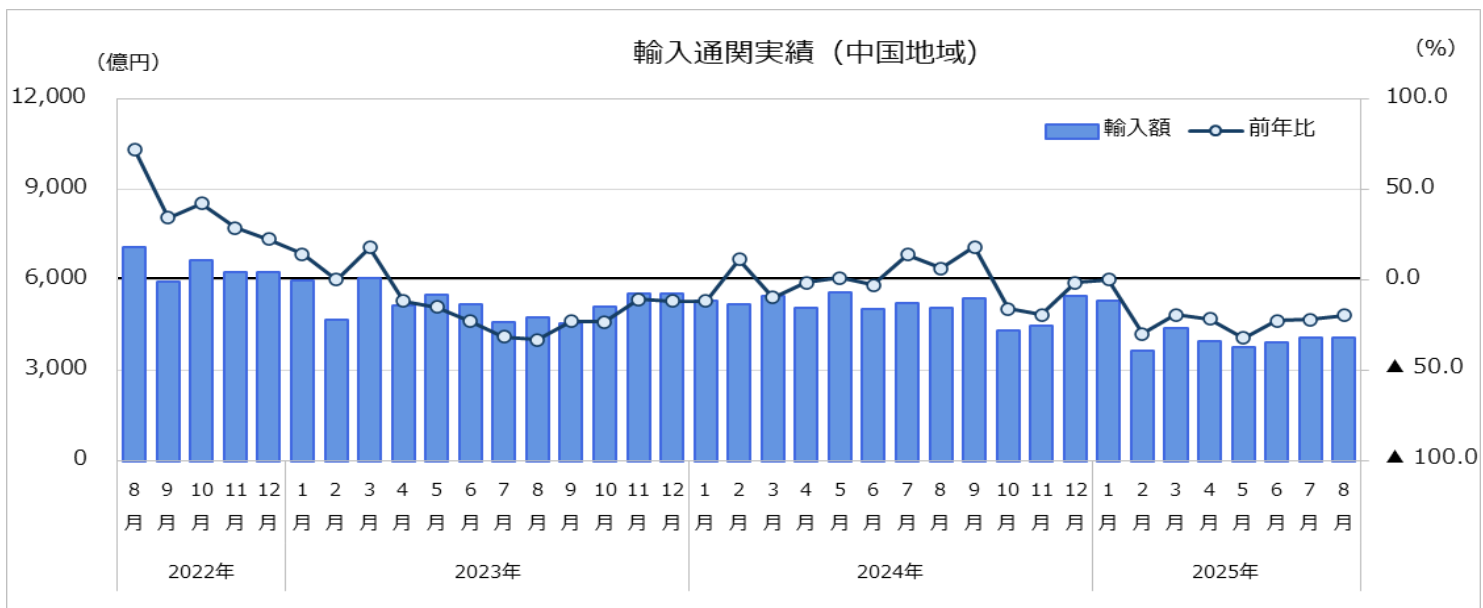


5. 貿易 ～輸出、輸入ともに前年同月比で減少～

2025年8月の輸出は、前年同月比▲14.0%と7か月連続で前年を下回った。品目別では、自動車、鉄鋼などが前年を下回った。地域別では、アジア、北米向けなどが前年を下回った。



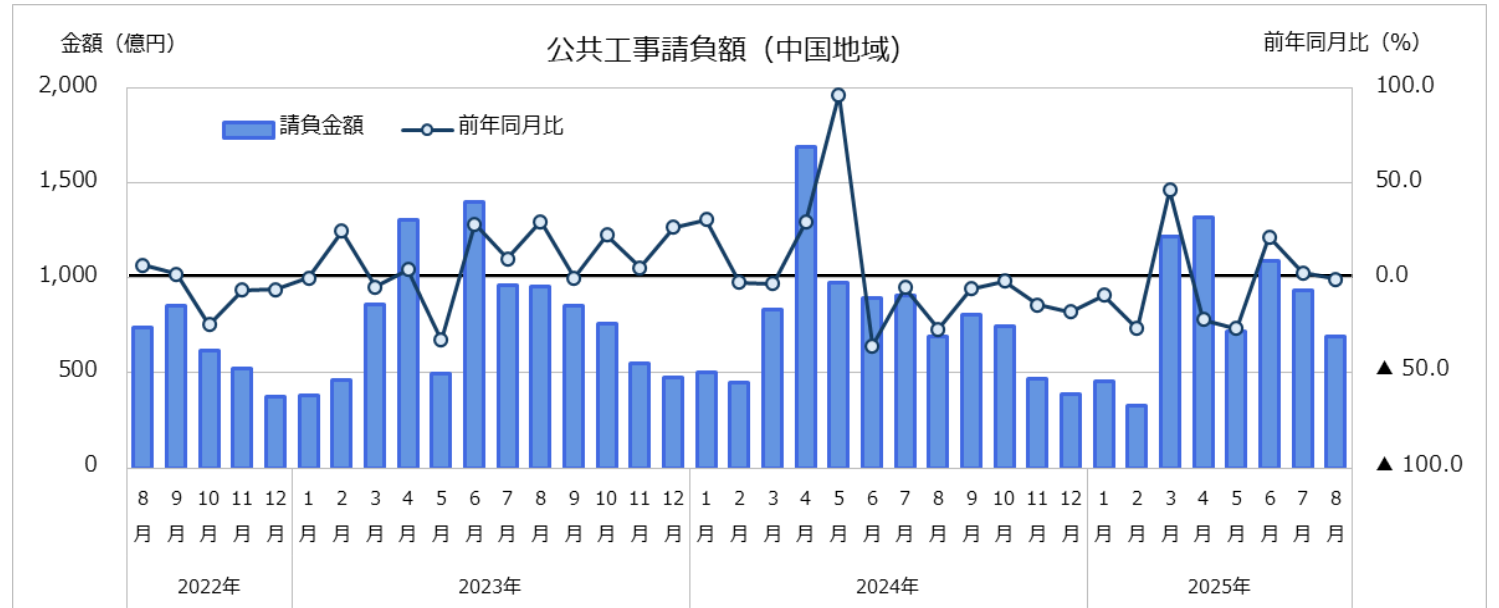
2025年8月の輸入は、前年同月比▲19.5%と7か月連続で前年を下回った。品目別では、原油及び粗油、金属鉱及びくずなどが前年を下回った。



6. 建設動向 ～公共工事、住宅建設ともに前年同月比で減少～

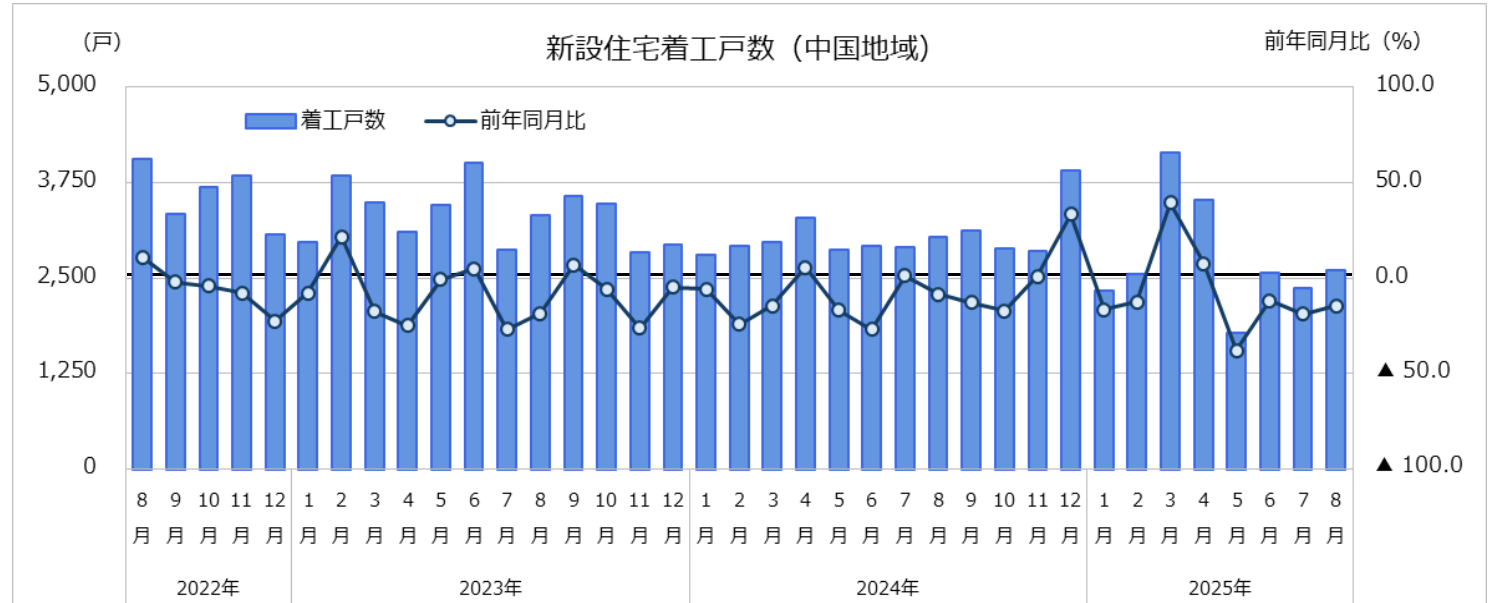
2025年8月の中国地域の公共工事請負金額は、国、独立行政法人等、県で前年を下回ったものの、市町村、その他公共的団体で前年を上回った。合計では前年同月比▲0.7%と3か月ぶりに前年を下回った。

(資料) 西日本建設業保証(株)広島支店



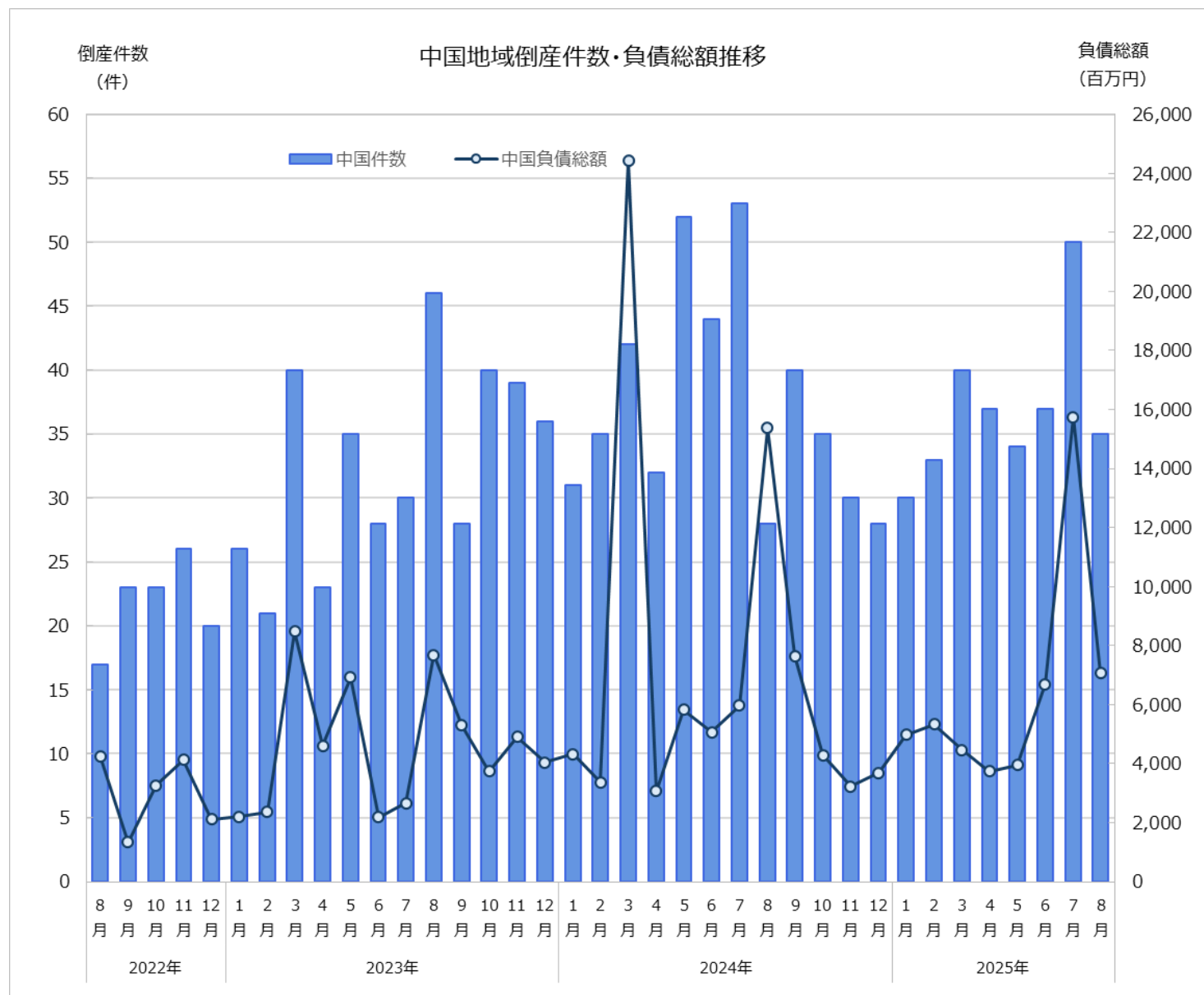
2025年8月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲住宅で前年を下回ったものの、給与住宅で前年を上回った。合計では前年同月比▲14.3%と4か月連続で前年を下回った。

(資料) 「建築着工統計調査報告」 (国土交通省)



7. 企業倒産 ～件数は前年同月比で増加、負債総額は前年同月比で減少～

2025年8月の企業倒産件数は35件で、前年同月比25.00%と4か月ぶりに前年を上回った。また、負債総額は70億7,000万円で、前年同月比▲53.98%と3か月ぶりに前年を下回った。業種別にみると、建設業が14件、サービス業他が7件、小売業が5件などとなった。原因別にみると、販売不振が33件、過小資本及びその他が1件となった。



8. 設備投資 ～2025年度計画は前年度を上回る見込み～

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果(2025年9月)によると、2025年度の設備投資計画(含む土地投資額)は、製造業が前年度比27.0%、非製造業が同▲6.2%となり、全産業では同9.7%となっている。

(注) 横軸に初回調査(3月調査)から実績が確定する翌年6月調査までの6調査回を取り、毎年度の設備投資計画について、調査回毎の前年比の足取り(修正パターン)をグラフで示したもの。

